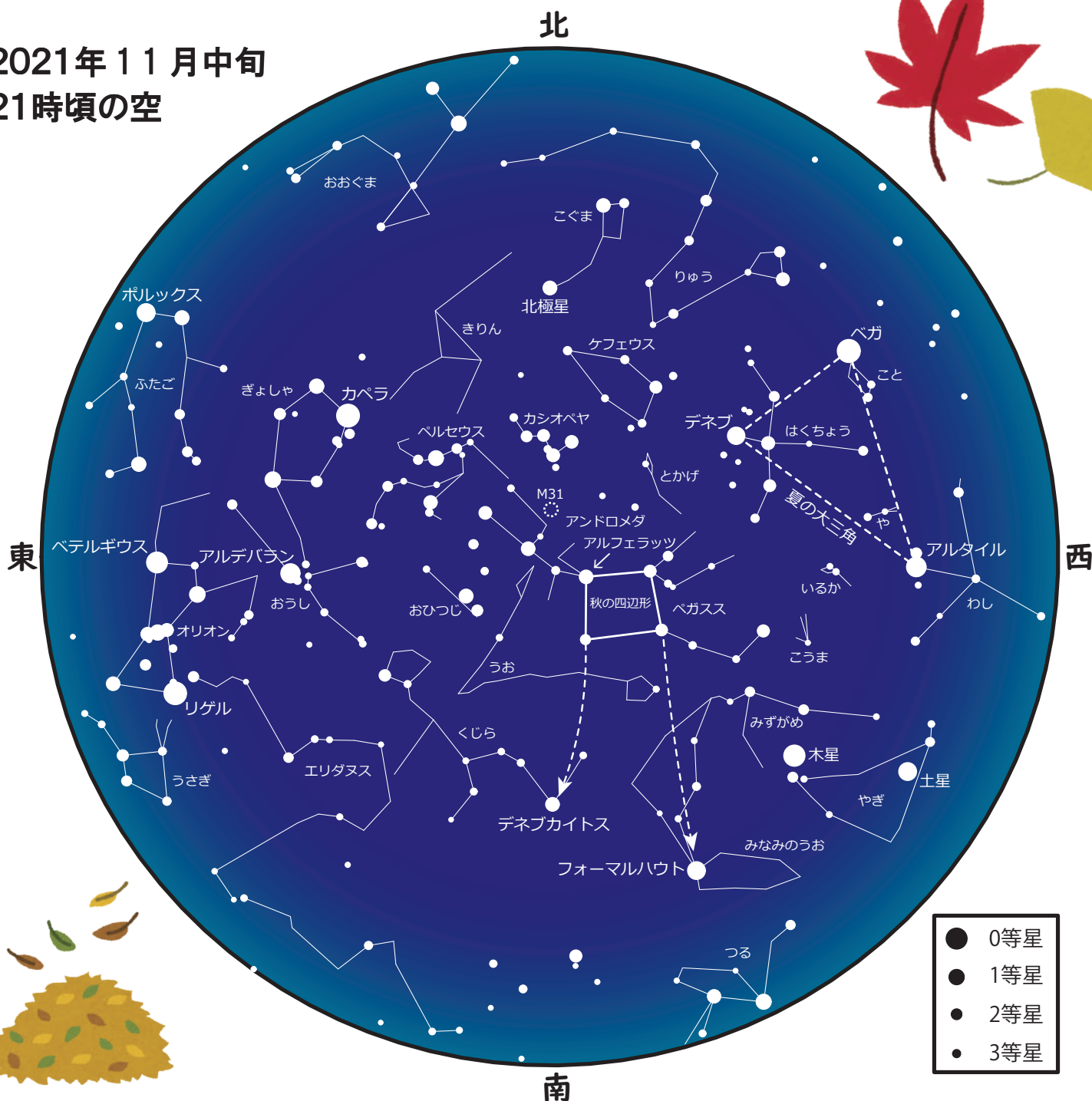


11月の星空案内

2021年11月中旬
21時頃の空



「さよなら三角、またきて四角・・・」という言葉遊びがありますが、夏の大三角は西の空へと傾き、まもなく見ごろを終えます。変わって夜空の主役を飾るのは秋の星座たちです。秋の星座は四角の形が案内役となります。西の空の高いところ、頭の真上近くで、少し暗い星を結んでびつな四角の形を作ってみましょう。ちょうどめいっぱい伸ばした握りこぶしくらいの四角の形です。この形は秋の四辺形と呼ばれる星の並びで、ペガサス座の胴体の部分にあたります。今度は、秋の四辺形の北東にあるアルフェラッツという星からアルファベットのAという形に星を結んでみましょう。この辺りには星座名がAから始まるアンドロメダ (Andromeda) 座があります。アルファベットのAの横棒を、同じくらい伸ばした先にはアンドロメダ銀河 (M31) という天体があります。この銀河の明るさは4.4等となっており、空の暗いところへ行くと、肉眼でもぼんやりとした淡い光として見るができます。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 18時～, 19時～, 20時～】

阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

11月の月の満ち欠けと惑星について



新月
5日



上弦
11日



満月
19日



下弦
27日

11月の天体観望会で月が見える日時は？



11/13(土) 全ての回で観察可



11/20(土) 19時、20時の回で観察可

水星：月の初め頃の日の出前、東のごく低空に見える。【約-0.8等】

金星：日没後、西の低空に見える。【約-4.5等】

火星：見かけの位置が太陽に近く、観察は難しい。

木星：夜のはじめ頃から夜遅くまで見える。【約-2.4等】

土星：夜のはじめ頃から夜遅くまで見える。【約0.7等】

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ月の初め頃の明るさ

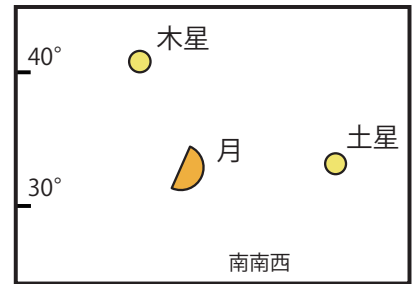


図1. 11日19時頃の月・木星・土星
この日は月・木星・土星が近くに見える

11月のおすすめ天体

★昼間の金星食（11月8日）

2021年11月8日の昼間に金星食が起こります。金星食とは、金星が月によって隠される現象です。月は1か月に約1回の頻度で、金星の近くに見えます。しかし、空の中での月の通り道と、金星の通り道は少しずれているため、毎回金星食は起こりません。日本で金星食が見られるのは、2012年以来約9年ぶりです。

金星食は地域によって進行の時刻が少しずつ異なります。阿南市では13時45分ごろから金星が月の暗く見える部分に隠され始め、13時49分にはすっぽりと月に隠されます。その後14時17分ごろ月の明るく見える部分から金星が再び顔を出し、14時21分に完全に月から出現します。

今回の金星食は昼間に起こるため、残念ながら肉眼で見ることはできません。しかし阿南市科学センターでは、望遠鏡を使った中継を予定していますので、こちらでお楽しみください。さらに同日の日没後には、西の空低くて、月と金星が並んで輝く様子が肉眼で楽しめます。月と金星のランデブーをご覧になってみてはいかがでしょうか。

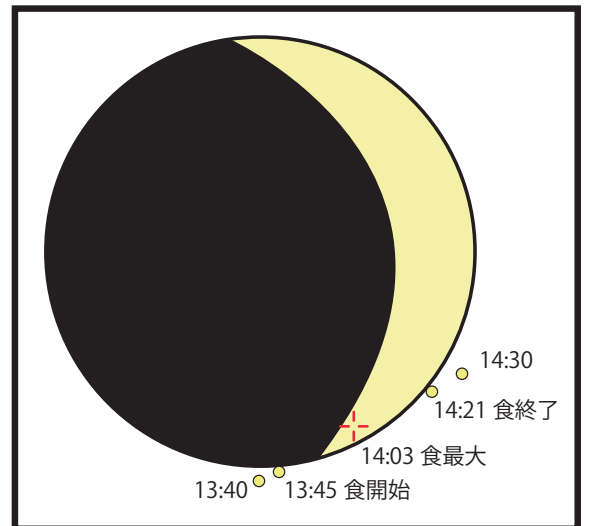


図1. 月に対する金星食の進行（阿南市の予報）

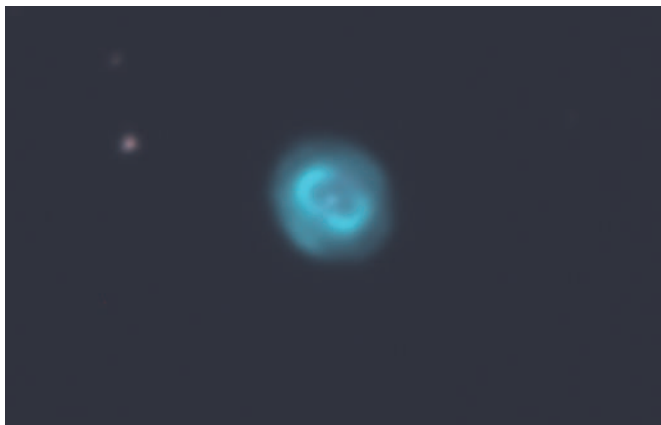


写真1. 青い雪だるま星雲 (by A.Suzuki)

★青い雪だるま星雲

青い雪だるま星雲は、アンドロメダ座に輝く天体です。この天体は惑星状星雲と呼ばれる天体の1つで、星がお亡くなりになっている途中の状態の姿です。星の最期はその星の質量によって分かります。おおよそ太陽ほどの質量の星の最期は、このような惑星状星雲に進化すると考えられています。

当館の113cm反射望遠鏡で見ると、少し青みがかかったぼんやりとした姿を見ることができます。一方写真で撮ると、青い雪玉という名の通り、青く美しい姿をとらえることができます。雪だるまというにはまだ早い時期ですが、夜空の中で季節を先取りしたような気分になりますね。